

令和元年7月3日現在

機関番号：72681

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02095

研究課題名(和文) 東アジアにおける天道信仰の総合的研究 道教・陰陽道とのシンクレティズムを中心に

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of Tendo Faith in East Asia: With a Focus on Syncretism of Taoism and Onmyodo

研究代表者

加藤 みち子 (KATO, Michiko)

公益財団法人中村元東方研究所・その他部局等・専任研究員

研究者番号：10306524

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、東アジアおよび日本各地で「天道(天)」をめぐるフィールド調査および史資料の調査を行い、陰陽思想・道教を含む「宗教複合」思想を浮き彫りにすること、とりわけ「大陸とのつながり」を視野に入れて精査することにより、従来の研究では抜け落ちていた「天道」思想の現代につながる意義を見出すことを目的とするものである。

調査の成果として浮かび上がってきたのは、わが国の天道概念は、天神(アマツカミ)、牛頭天王、素戔鳴尊、天神(菅原道真)と関連・習合・同一視されつつ展開すること。第流布には、吉田神道が密接にかかわること。大陸から伝来した道教書『太上感應編』が重要な役割を果たしていることである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

天道という宗教観念は、わが国で「お天道さま」として通常概念として流布しているが、その思想的実体については、必ずしも明確であるとはいえない。

本研究は、その思想的実体を明らかにするため、民俗学的フィールドワーク、思想史的文献資料の解読、哲学的概念分析等ほ方法を横断的に駆使することで、従来は不明確であったその「宗教複合」としての思想の内実を明らかにしようという試みである。

この研究をとおして、日本の宗教思想の特色と、東アジアにおける我が国の思想的異議を浮き彫りにすることができると思われる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to conduct field surveys and historical data surveys on "tendo" in East Asia and various parts of Japan, and to highlight "religious complex" ideas including Yin and Yang ideas and Taoism, especially The purpose of this study is to find out the significance of connecting to the present-day "tento" thought, which had been dropped in conventional research, with a view to "connection with".

What has emerged as a result of three years is that Japan's Tendo concept is to be developed while being related, understood, and identified with Tenjin (Amatsukami), Ushitou Tenno, Sorin Son, and Tenjin (Michihara Sugawara). Yoshida Shinto is closely related to the first distribution. It is that the Taoist script "Taigami Sensei Hen", which has been transmitted from the continent, plays an important role.

研究分野：日本思想史

キーワード：天道 道教 陰陽道 宗教複合 対馬 吉田神道

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、2012年度～2014年度に実施した基盤研究(C)24520097「天道念仏・天道神社のフィールド調査を中心とする「天道」概念の総合的研究」の研究成果に基づいて、発展的にもたらされた問題意識による調査研究である。前研究では、わが国の「お天道さま」がいかなる宗教概念であるかについて、神道と仏教にまたがる宗教概念であると検討をつけて、わが国内に散在する「天道神社」および「天道念仏行事」に関する調査を行うことで、神道・仏教との関係を明らかにすることを旨とするものであった。

しかしながら、調査結果によれば、天道神社と天道念仏の分布地域がほとんど重ならないこと、およびいずれも修験道の分布と密接なかわりがあるということが浮かび上がってきた。また、天道神社は、必ずしも太陽神をまつる神社ではないし、天道念仏は太陽信仰につながるものではないということも宗教儀礼や民間伝承等の分析から明らかとなってきた。さらに、天道神社や天道信仰のルーツはいずれも大陸との関連を示す表徴があることが分かってきた。

以上の検討を踏まえて、天道信仰について明らかにするためには、神道・仏教に限定されない、道教や修験道・陰陽道を含めた宗教複合の諸相を研究する必要があるということが見えてきたのである。

2. 研究の目的

本研究では、東アジアおよび日本各地で「天道(天)」をめぐるフィールド調査および史資料の調査を行い、陰陽思想・道教を含む「宗教複合」思想を浮き彫りにすること、とりわけ「大陸とのつながり」を視野に入れて精査することにより、前回の研究では抜け落ちていた「天道」思想の現代につながる意義を見出すことを目的とする。

我が国の「天道」を、東アジア全体に共有される「天」をめぐる宗教概念との関係の中で見ていくことで、「東アジアの中の日本」というグローバルな位置づけを見出し、宗教思想に関する日本の独自性をあらためて浮き彫りにすることをめざす。

3. 研究の方法

国内調査では、従来の調査地に加え、道教・陰陽道とのかかわりに着目してあらたなフィールド調査を行った。資料調査としては、大陸から伝来した道教・陰陽道関係の史資料を取り寄せ、その中で「天」および「天道」につらなる概念がいかなる位置づけにあるのかを検討し、当該を、現地調査の結果と突き合わせて、考察を深めた。また、日本思想史学会、宗教史学会、日本民俗学会などで調査結果を発表し、識者のアドバイスを、さらに調査に活用した。具体的には(1)津島信仰と天道神社に関する調査、(2)対馬の天道信仰と韓国・台湾の天道信仰の関係に関する調査、(3)吉田神道と天道に関する調査を順次進めた。

(1) 津島信仰と天道神社に関する調査

愛知県津島市を中心に、愛知県・静岡県・岐阜県に展開する津島信仰(牛頭天王信仰)と天道神社の立地・縁起・祭祀・信仰内容・担い手について実地調査を行った。他方、文献調査として、津島信仰の担い手として知られる、織田信長・豊臣秀吉ら有力武将の思想と信仰について、『信長記』『信長公記』などをはじめとする史資料、伝承を収集し、検討した。

(2) 対馬の天道信仰と韓国・台湾の天道信仰の関連についての調査

対馬・壱岐・大分を中心とした九州に分布する天道祭祀遺跡の調査を行う一方、『對馬神社誌』等現地で収集した史料から、大陸から伝来した渡来神としての天道神について検討を進めた。

(3) 吉田神道と天道の調査

對馬・津島の天道信仰・大陸の天道信仰のルートを、思想内容から跡付けつつ、当該の思想と吉田神道との類似点について検討・調査を進めた。

4. 研究成果

現在まで3年間の成果として浮かび上がってきたのは以下の3点である。第一に、わが国の天道概念は、天神(アマツカミ)、牛頭天王、素戔鳴尊、天神(菅原道真)と関連・習合・同一視されつつ展開すること。第二に、対馬系天道思想の源流は、吉田神道の祖・ト部平麻呂であり、わが国の天道思想の流布には、吉田神道が密接にかかわること。第三に、天道信仰には、大陸から伝来した道教書『太上感應編』が重要な役割を果たしていること。第四に、道教系天道信仰は、沖縄および九州地区にも多くみられ、当該地区の信仰は、琉球諸島を経て大陸から流伝した形跡があることである。

以上のうち、第四点については、当初は予想していなかった成果であり、しかもわが国の天道信仰成立にとって重要な役割を果たしている。そこで、大陸からわが国への天道思想の伝播ルートを位置づけるために申請した「天道信仰の発展的研究 琉球から大陸への展開を中心に」において、調査を発展継承している。当該の成果については、次の科研の報告として提出予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 7件)

加藤みち子「大日経義釈見聞 解題」『中世禅籍叢刊 第12巻 稀覯禅籍集 続』、臨川書店、2018年3月、pp471-541, pp685-704、査読無

加藤みち子「書籍紹介・中世禅籍叢刊第4巻聖一派」『東方』第33号、白峰社、pp187-189
2018年3月、査読有

加藤みち子「痴兀大慧の廓庵十牛図解釈」『東方』32号 1-24 2017年、査読有

加藤みち子「禅宗九根機口訣」『聖一派』(中世禅籍叢刊)臨川書店、567-572, 657-662

2016年、査読無

加藤みち子「熊野信仰における共生の思想」『インドの共生思想の総合的研究』白峰社、2017、pp367-386、査読無

加藤みち子「お天道さまに恥じない生き方」『在家仏教』在家仏教協会、2015年、査読無

加藤みち子「清沢満之をどうよむか 現代への提言として」『清沢満之』中央公論新社 2015
pp1-24、査読無

〔学会発表〕(計 4件)

加藤みち子、東アジアと日本の天道信仰、仏教思想学会第32回学術大会、東京・大正大学、
2016年07月09日

加藤みち子、六道絵と十界図、ナマステインディア 2016、2016年9月24日・25日

加藤みち子、神と仏の変奏、NPO法人東洋思想文化研究所中村元記念館・島根県松江市、
2016年5月7-8日

加藤みち子、熊野古道の信仰と共生思想、鶴岡文庫東方学院共催講座・神奈川県鎌倉市、2015
年11月15日

〔図書〕(計 2件)

加藤みち子『鈴木正三著作集1』、中央公論新社、2015年、194頁

加藤みち子『鈴木正三著作集2』、中央公論新社、2015年、327頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

(2)研究協力者

研究協力者氏名：朴炳建

ローマ字氏名：Ken B.K.Park

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。